

平成27年度 第2回東部地区幼稚園教員・保育士の合同研修会 「基礎的な動きをつくる楽しい運動遊び」

日時：平成27年6月10日（水）

場所：鳥取県立産業体育館

【ねらい】

幼児期における運動の意義や健康な心と体づくりについて理解を深めるとともに、幼児の体力を高める「基礎的な動きをつくる楽しい運動遊び」の指導の工夫について学ぶ。

◆説明

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査から見た児童・生徒の実態と体力向上のための取組」
体育保健課 指導主事 生田 優介 氏

○調査結果等から明らかになったこと

- ・小中学生の体力は全体的に低下
- ・運動嫌いは小学校入学前（幼児期）から始まっている
- ・1日60分以上の運動習慣のある子は体力が高い

○取組の重点

- ・幼少期に多様な動き、十分に体を動かすことの心地よさを体験
- ・「できた」「楽しい」「またやりたい」と実感できる体育学習（遊び）の実践
- ・学校（園）全体で運動機会を充実する取組の実施



◆講義・実技

「基礎的な動きをつくる楽しい運動遊び」

西部教育局 指導主事 幅田 典代 氏

○幼児期には、多様な動きが体験できる様々な遊びを取り入れる 多様な動き・・・レパートリーの多様さ

（◎歩く、走る、打つ、跳ぶ、蹴る等・・・量）
バリエーションの多様さ

（◎上下、左右、ジグザグ、速く、ゆっくり等・・・質）

○自己決定できる空間の確保と支援（子どもに寄り添い、その子にあった支援を）

○自己有能感につなぐ工夫をする（「できた」「もっとやりたい」と思えるように）

〈実技〉

○道具を使わない遊び

一人で、二人で・・・全員で



全員で
「なべなべそこぬけ」♪

○縄を使った遊び

結んだ縄を頭に乗せて歩いたり、
輪にして跳び越えたり・・・



縄を十字において、前向きや
後ろ向きに跳ぶ

○新聞紙を使って

新聞紙に隠れる、新聞紙をちぎる、丸める、投げる、跳ぶなど



丸めて、ボール
にして投げる、
転がす、蹴る。



キーワードは、3つ
多様な動き、
自己決定 自己有能感

【参加者の感想】

- ・子どもの運動嫌いは“幼児期から始まっている”という言葉が印象的だった。運動が楽しいと思えるよう、子どもたちにいろいろな経験をさせていきたい。
- ・新聞紙を使った遊びは、以上児・未満児ともに発達に合わせた遊び方ができると感じた。担当している子どもの実態に合わせて自分なりに工夫していきたい。
- ・縄は「跳ぶ」ものだと思っていたが、跳ばなくてもいろいろ楽しく使えるということが分かった。
- ・同じ遊びでもいろいろなバリエーションがあり、遊び方は無限に広がるということが分かった。
- ・いろいろな遊びを体験する中で、自己決定、自己有能感を子どもたちが感じられるよう、遊び方を工夫していきたい。

「運動大好き！」な子どもの育成を目指して、3つのキーワードを意識して取り組んでいきましょう。

